

侵入防止柵の設置によるイノシシの被害防止対策

1 要旨

水稲へのイノシシの侵入を防ぐため各農家が電気柵を設置してきたが、出穂後の乳熟期以降に電気柵を突破して侵入する事例が多発していた。加えて電気柵撤去後の農閑期に圃場内の掘り起こしや畦畔の損傷が多発していた。

このため、ワイヤーメッシュ柵を2か年計画で新設し定期的な見回り等の管理を行い、侵入防止、被害軽減に取り組んでいる。

2 地区の概要

地区名	山口市徳地 船路地区
主な作物	水稲
加害獣種	イノシシ
対策実施年度	令和5年度（令和4年度プラン作成）



3 被害の状況と課題

地区では水稲を中心とした農業生産が行われている。従来は出穂前に被害防止のために、自己負担で電気柵の設置を行ってきた。しかし、近年は出穂後の乳熟期以降、電気柵を突破して侵入する事例が毎日のように散見されるようになり稲穂の食害被害が多くなっている。加えて農閑期の電気柵撤去後の圃場内の掘り起こしや畦畔の損傷は目に余るものがある。

4 取組内容

(1) 防護対策（ワイヤーメッシュの新設及び管理）

- ・周辺林地からのイノシシの侵入を防止するため、ワイヤーメッシュの新設を行う。
新設後は、定期的な見回り、草刈、補修を行い、継続的な効果の発現に取り組む。

(2) 捕獲対策（箱わなの設置の継続）

- ・猟友会と相談し、設置場所、設置方法を検討する。

(3) 取組の様子



【イノシシ侵入防止柵の設置作業】

5 取組の成果

ワイヤーメッシュ柵を設置したことによりイノシシの侵入は減少している。

【被害額】

(千円)

区分	事業 実施前 (R4)	令和6年度		令和7年度		令和8年度	
		実績	増減	実績	増減	実績	増減
イノシシ	500	350	▲150	—	—	—	—

6 地区代表者のコメント（澄川代表）

当地区は中山間地域で高齢化が進んでいるが、令和5年度に設置した有害鳥獣侵入防止柵のおかげで、水が綺麗な産地を守る意欲が湧いてきた。またこの対策により、有害鳥獣による被害がなくなる可能性を実感している。

7 今後の取組

ワイヤーメッシュ柵の設置は、令和5年から6年にかけて2年間で計画されている。今後は柵の管理体制を充実させ、地元猟友会と連携して農作物の被害軽減に取り組んでいく。